

大阪で今年も開催される “セーフティドライビングフェスタ”

～昨年に続き、勅使河原さんもゲストとして参加予定～

(福永修 セーフティドライビングフェスタ実行委員会)

バイクに乗っていたある日、一般道でバスと正面衝突する事故に遭い、複雑骨折と何針も縫う怪我を負ってしまった私。この事故が原因で右手の握力はほとんどなくなり、バイクに乗ることは諦めざるを得なかった。だが、走ることへの欲求は捨てきれず、四輪のモータースポーツへ興味に移り始めた。自動車業界へ就職を果たし、その後ラリーに参加、一気に全日本選手権まで駆け上がることができた。

しかし、悲しいことにモータースポーツは、まだまだ社会的な認知度が低く、一步間違えば暴走族の延長線上と誤解されているかもしれない。ともすれば、私たちの活動しているモータースポーツが全否定されてしまう。私は何か違うのではないかと。そしてモータースポーツからのアプローチで、何か世の中の人のために恩返しができるか？ と考えるようになっていった。

クルマの楽しさを伝え、 運転する機会を創造し支援

そこで思い立ったのは、私たちのようなプロドライバーが表舞台に立ち、障がい者の方々にクルマという道具を使うことによって自立し、社会参加するきっかけを作る“セーフティドライビング”のイベントの開催。そして忘れもしない2008年12月13日(土)の「セーフティドライビングフェスタ2008」開催当日は、雲ひとつない快晴。会場となる大阪市此花区北港緑



走行のようす

地2丁目の舞洲スポーツアイランドには、趣旨に賛同して集まったボランティアが総勢約90名。開催2ヵ月前に4人でスタートしたことを思い返すと、思わず目頭が熱くなってしまった。

セーフティドライビングフェスタの内容は、ドライ路面でスラロームや急ブレーキなどの基本をまず体験してもらい、その後コースに水を撒き、ウェット路面にしてブレーキングの違いや危険回避のためにどのような点に注意するかなどを、プロの目からアドバイスする安全運転講習。

また、ステージでは車いすのプロドライバー、勅使河原選手と中嶋選手によるトークショーも行われ、障がいを持つに至る経緯やクルマによって社会復帰するきっかけを掴んだこと、モータースポーツという競技は、障がいを持っていても健常者と平等に競い合うことができることなど、いろいろな話題も交えて来場者へ伝えた。その他、シートベルトコンビンサー(JAF)の体験や、プロドライバーによるデモランも行われた。

健常者であったときに運転免許証を取得し、その後の突然の事故で下半身麻痺になられた女性に参加された感想をお伺いしたところ、「障がいを持ってからクルマの運転はとても怖くてできなかった。事故に遭ってから今日まで一度もハンドルを握ることはなかったけれども、こうしてプロが助手席から丁寧に指導してくれるこ



アドバイスを送る勅使河原氏



トークショーのようす

とで、障がいがあっても運転できるという自信につながった。クルマに乗ることができれば活動範囲を広げることができるので、とてもうれしい」と話されていた。

今年のフェスタは、 12月6日(日)に開催

今年の第二回のセーフティドライビングフェスタ2009は12月6日(日)10:00～16:00、場所も同じく舞洲スポーツアイランドで行われる。内容は、今年の第一回の反省点を踏まえ、より来場者が楽しみながらさまざまな体験と情報を得ることができ、障がい者と健常者の交流の場を実現するため鋭意企画 중이다。まずイベントの中心となる安全運転講習は、参加者の運転スキルに応じてクラス分けをすることで、プロドライバーからの指導内容を適切に行う。手動運転装置メーカーからの協力で、なかなか一般では対応できない手動装置の無料点検を実施することも決まった。また、これから免許証を取得する障がい者に対して、免許証取得と車両購入の無料相談会を実施する。子どもたちも楽しめるファミリージムカーナやクルマ好きの人たちによる愛車自慢コンテストなど、楽しい企画も盛りだくさん。ぜひ一度HP (<http://www.sd-f.jp/>) をご覧いただきたい!“できないことやできなかったことができるようになる!”。こんな素晴らしいことはない。Let's Together! 一緒に走ろうや!